

## I 実践

### 1 研究主題 「人権尊重の精神の涵養を目指す人権教育の推進」 ～教育活動全体を通じた生徒の人権感覚や人権意識の育成～

#### (1) 主題設定の理由

本校では、「一人一人の生徒に人間の尊さについての自覚をもたせ、互いに大切にし合う生徒の育成」「自ら判断する力を養い、物事を正しく捉え、正しい判断のもとに行動できる生徒の育成」「互いの人権を尊重し合い、望ましい人間関係づくりに努める生徒の育成」を人権教育の目標としている。

本校の生徒は、素直で落ち着いた学校生活を送っている。しかし、昨年度の卒業生が1学年の頃、生徒同士の間で心ない言動が見られたことから、「いじめ撲滅委員会（以下、通称の IBI で記載）」が結成され、学年の雰囲気をよくしていこうという活動が盛んになった。その活動が広く認知されるようになり、昨年度までに、県から「いじめストップ！絆づくりプロジェクト推進校」に指定されたり、茨城新聞社や朝日新聞社の取材を受けたりする機会があった。昨年度は、IBI の活動を全校に広げようという動きが起こり、全校の活動として「いばキラ TV」で紹介された。また、文部科学省が企画している「いじめ問題子どもサミット」に県の代表として参加した。

そこで、例年行われている活動に加え、今年度から専門委員会の一つになった IBI の活動を通して、あらゆる場面で思いやりの気持ちをもった生徒を育成できるよう、この主題を設定した。



【いばキラTVの取材の様子】

#### (2) 研究の内容

ア IBI を含む全委員会活動や地域行事への参加等を通して、ボランティア精神や他者を思いやる気持ちを育てる。

イ 道徳の授業を通して人権意識を高める。

ウ 生徒の主体的な活動を通して人間関係を深める。

エ 外部講師の講演を通して、人権に関する情報や知識を得る。

## 2 実践内容

### (1) 委員会活動

ア 生活委員会によるあいさつ運動

イ IBI による「いじめゼロ」を呼びかけるあいさつ運動  
[IBI については (5) に詳しく記載]

ウ 福祉委員会による募金活動

エ 体育祭での敬老種目（坂中からの贈り物）の実施



【あいさつ運動の様子】

### (2) 道徳授業の充実

ア 学年一斉の時間割編成

イ 全学級道徳授業を授業参観で公開

### (3) 生徒の主体的な活動の呼びかけ

ア 敬老会への参加

福祉委員会が中心になって生徒に呼びかけ、ボランティア参加者を募り参加している。吹奏楽部もアトラクションに演奏で参加している。

イ 福祉のつどいへの参加

福祉委員会が中心になり参加者を募集し、20名の生徒が参加した。

ウ 人権に関する作文や標語への応募

### (4) 外部講師を招いての活動

ア ピアサポート研修講座の実施

各学級から3名程度ピアサポート研修生を選出し、スクールカウンセラーの来校日に研修を受けている。また、1, 2年生の各クラスで、スクールカウンセラーによるソーシャルスキルに関わる授業を行った。

イ 情報モラル教室

7月8日、KDDI の職員を講師に招き、ラインやメールの危険性について講演していただいた。

## ウ いのちの教育講演会

7月10日、茨城キリスト教大学の磯山あけみ先生を講師に招き、講演会を行った。3年生を対象に、「性感染症の理解と予防法」、「異性との良い関わり方」について、講演していただいた。



【ピアサポート研修会の様子】



【情報モラル教室の様子】



【いのちの教育講演会の様子】

## (5) IBI (いじめ撲滅委員会) の活動

「いじめゼロ！一人一人をクリーンな心にしよう！」のスローガンのもと、以下の活動を行っている。

### ・ 定例会

委員会の時間に、各学級の様子を報告し合い問題点があれば解決のために話し合う。

### ・ あいさつ運動

生活委員会のあいさつ運動とは別に、IBI 隊員による朝のあいさつ運動を行っている。どのようなことを呼びかけるか事前に話し合い、「いじめゼロ」を呼びかけている。

### ・ IBI フェスティバル

昨年度は、坂本小学校の6年生が1日体験をする日に合わせて実施した。パビリオン形式で、ゲームやSGE、今までの活動紹介などを行った。

### ・ KKS キャンペーンの実施

K(靴の)K(かかとを)S(そろえよう)キャンペーンとは、昇降口の靴箱の整理整頓から、生徒の生活習慣や学校の環境を見直そうという生徒の発想から始めた取り組み。



【定例会の様子】



【IBIフェスティバルの様子】

## 2 成果

- (1) 今年度から IBI が専門委員会となり、委員には学級役員が必ず1名入ることになった。そのため、学級の問題について、全学級が同じ意識のもとで考えることができるようになった。学校全体で「いじめ撲滅」に対する思いが強くなった。
- (2) 「あいさつ運動」「ピア・サポート研修」「人権作文への応募」など、毎年取り組んでいる活動を通して、一部の生徒ではあるが思いやりの気持ちが浸透してきている。継続して指導をし、広げていくことが大切だと感じた。
- (3) 「敬老会」や「福祉のつどい」などの地域行事に参加し、お年寄りや小さな子どもとふれ合うことで、他者を思いやりたり助けたりする気持ちが育った。

## II 今後の課題

IBI が専門委員会となり、活動を全校へ広げることができた。しかし、組織が大きくなったことで、IBI 委員内に意識の差が生まれ、それを埋めるために活動内容を発足当初に戻さなくてはならない部分もあった。また、IBI 委員とそれ以外の生徒の意識に差もある。IBI 委員の少数意見が全て正しいという風潮になってしまわないように、慎重に話し合いをさせることや、常時活動、IBI フェスティバルなどを通して、全生徒の理解を深め、さらに全校に理念を浸透させていきたい。